

つなぐ

TSUNAGU

TSUNAGU vol.12

メンテナンス新時代



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance



2025年度 自主保全士検定試験
成績優秀者 表彰式記念冊子





公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会 会長
トヨタ自動車株式会社 Executive Fellow

河合 満

モノづくりに、頼れる「現場力」を。 加速する自主保全へのニーズの、今と未来。

2026年2月に名古屋で開催された「2025年度 自主保全士検定成績優秀者 表彰式」。公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会の河合満会長より成績優秀者への祝辞として、自主保全ができる人材への期待と、これからの生産現場で果たすべき役割についてメッセージを贈った。

「自主保全士検定試験」にて成績優秀者表彰を受けた皆さん、今日は誠におめでとうございます。また優秀企業として表彰を受けられた皆さまにも、心よりお祝いを申し上げます。今回の表彰は、皆さん一人ひとりが努力を積み重ね、自らの力で勝ち取られたものです。自信と誇りを持っていただきたいと思います。

ただし、検定合格はゴールではありません。ここからが本当のスタートです。自主保全士として身につけた知識や視点を、これからそれぞれの職場・現場でどう活かしていくのか。その実践こそが何より大切です。後輩や同僚、上司は、皆さんの行動に注目しています。ぜひ、後輩から「自分もあなりたい」という目標とされる自主保全士として、現場で力を発揮していただきたいと思います。

私自身、15歳でトヨタ技能者養成所に入り、技能者としてトヨタへ入社して以来、一貫して生産現場で仕事を

してきました。時代は変わり、現場を取り巻く環境も大きく変化しています。しかし、現場で最も大切なものは今も変わりません。それは安全と品質であり、その土台となるのが設備の安定稼働です。設備を安定して動かし続けることが、生産の安全と品質を支える前提であると私は考えています。

故障が起きてから対応する事後保全では、間に合わないことがあります。生産の遅れは簡単には取り戻せず、不良やロスの拡大にもつながります。だからこそ、日頃から設備に向き合い、小さな変化を見逃さず、微欠陥や不具合を早く見つけ、早く手を打つことが重要です。自主保全は、まさにそのための活動です。「自分の設備は自分で守る」という意識を持ち、自分が使う設備を自分の仕事として見ていく。その姿勢が、安定したモノづくりを支えます。皆さんには、そういった姿を背中で見せていただきたいと思います。

知見を発信し、生産現場を改善する 現場力のキーパーソンであれ

これからの社会、人手不足はますます深刻になると予想されています。多くの企業では、その対策として自動化を進めています。自動化で省人化が進むと同時に、設備の維持・保全をする人材が不足する現場も見受けられるようになりました。



求められるのは自動化ではなく「自動化^{*}」。私はいつも「自動化とはシンプル・スリム・フレキシブル」と言っていますが、単に設備を導入すればよいものではなく、現場を知る人が関わり、できるだけシンプルで維持しやすい仕組みにすることが重要です。自主保全の考え方に基づいて、日常の維持管理を自分たちで実践できる。そういった体制なくして、生産性を高める真の「自動化」にはなり得ません。結果として、設備を守る人材、つまり皆さんのような自主保全の知見を持つ人材の価値は、今後より一層高まっていくはずで

す。どれほど新しい設備や仕組みを導入しても、それを安定して使いこなし、守り続ける人がいなければ、真の成果にはつながりません。今後さらに人手不足が進む中で、設備を維持し、保全できる人材の価値は、ますます高まっていくということです。私はこれまで多くの現場を見てきましたが、優れた現場には共通点があります。それは、設備保全について現場の人が主体的に語り、異常を見抜き、改善を考え、実際に行動していることです。その中心にいるのが自主保全の知識を持つ人材です。設備導入や改善の場面でも、ぜひ皆さんが積極的に手を挙げ、自主保全士としての視点を現場の仕組みに

反映させてください。そしてその考え方を後輩たちにも伝えてください。そういった行動を繰り返すことで、自主保全を自分たちの力で実践する強い現場が育っていくのです。

当会では、「からくり改善」の普及にも力を入れています。小さな工夫から始め、次の改善へとつなげていく。こうした取り組みがモノづくりの現場に広がり、職場が驚くほど前向きに変わっていく様子を多く見てきました。本日表彰された皆さんには、ぜひ、こうした取り組みを自主保全の領域でも実現していただきたいと思います。からくり改善の創意工夫の精神を取り入れつつ、知識を実践に変え、背中を示すことで、自主保全の価値を現場に根付かせていく。その積み重ねこそが、これからのモノづくりを支える力になると確信しています。最後になりますが、本日表彰を受けられた皆さんには、この受賞を誇りに思ってくださいと同時に、今日を新たな出発点とし、学んだ知識を職場で自信を持って実践していただきたいです。そして、現場をさらに進化させてください。皆さんの今後の挑戦と活躍に大きな期待を寄せ、私のメッセージといたします。誠にありがとうございました。

※トヨタ生産方式では「自動化」ではなく、ニッパンのついた「自動化」という言葉を使用する。自動化とは機械に異常が生じたら、自動で止まる(止める)ようにすることで、不良品の発生を防止すること。これにより人が機械の見張りをする必要がなくなり、生産性の向上を図ることができる。

河合 満

1948年生まれ。1966年、トヨタ技能者養成所を卒業し、トヨタ自動車工業株式会社に入社。本社工場鍛造部長、本社工場副工場長、技監を経て、2015年専務役員に就任。2017年より副社長に就任し、現在はExecutive Fellowを務める。2016年6月より公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会副会長、2022年6月より会長に就任。



公益社団法人
日本プラントメンテナンス協会
資格認定委員会 委員長
マツダ株式会社 執行役員

宮脇 克典

累計受験者数30万人を突破。 成績優秀者の今後の活躍が賞賛されるよう期待。

資格認定委員会の宮脇克典委員長は「設備に強いオペレーター育成」の重要性を強調し、さらなる活躍へ向けて成績優秀者を激励した。

本日は「自主保全士優秀者表彰式」にお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の表彰式は、2025年度「自主保全士検定試験」において、特に優秀な成績を修めた合格者の方として、1級26名、2級49名に加えて、成績優秀者を多数輩出された企業の皆さま、これらの功績を表彰するものであり、表彰をお受けになる成績優秀者の皆さま、企業の皆さまには、心からお祝いを申し上げます。

また、式典にご出席の皆さまにおかれましては、お忙しい中、当会の表彰式にお越しいただき、誠にありがとうございます。

公益社団法人日本プラントメンテナンス協会では、モノづくりやメンテナンスを通じて産業界の発展に寄与するため「TPM」「からくり改善」「自主保全士」など、様々な事業を展開しております。なかでも「自主保全士検定試験」は、製造オペレーターに求められる知識や技能に、保全の機能や管理技術を加えた「設備に強いオペレーター」を育成することを目的としており、幅広い業種の方々にご利用いただいております。

2001年度より「自主保全士検定試験」を開始し、今年度で25年目となりました。累計の利用者数は30

万人^{*1}を超え、認定者も約15万人^{*2}に及ぶ製造業界向けの試験としては、国内最大級の資格試験となっております。2025年度の検定試験においては、利用者が14,588名で、特に1級は、過去最高の5,220名の受験者となっております。これは現場力の維持・向上のため、保全機能を付加した製造オペレーター育成への関心がさらに高まっていることを示していると思います。また当会で実施しているメンテナンス実態調査や国の調査でも、製造業における保全分野の関心が高まっており「自主保全士」にかかる期待が大きくなる中で、優秀者の皆さまのさらなる活躍を期待しております。今回授与される「自主保全士検定試験」の成績優秀者表彰が、今後の皆さまの活躍を陰ながら支えられるものとして、そして、所属企業、上司、同僚、部下の方々にアピールでき、賞賛されるものになるよう大いに期待しております。

今後も当会では、製造現場での最前線を担う皆さまの技能・知識向上のため、また、それをアピールできる環境づくりに役職員一同、精進してまいります。

改めまして、表彰をお受けになる成績優秀者と、各企業の皆さまに心からお祝いを申し上げます。

※1 検定試験のみの数字。通信教育・オンライン試験を含めると累計受験者数は40万人以上
※2 検定試験のみの数字。通信教育・オンライン試験を含めると累計認定者数は24万人以上

トヨタ自動車株式会社



GPC 保全マネジメント・支援室
主査

山本 孝司 さん



上郷工場・下山工場 製造支援部
第2支援課 TL

山田 雄介 さん



元町工場 機械部
部長

春木 一夫 さん



元町工場 機械部
主幹

浅野 伸二 さん

「設備を動かす楽しさ」を広げ、 現場力の未来へ挑む

生産現場だけでなく広い視野で自主保全士の資格取得を推進するトヨタ自動車株式会社からは、近年ますます活性化する、その取り組み内容が発表されました。

トヨタ自動車株式会社では、製造現場を中心に設備に強いオペレーターの育成を急務とし、技能者養成所と協力し、リーダー会議を通じた受験促進活動が行われている。今回は「自主保全士資格取得活性化の歩み」と題し、横断的に進めてきた人材育成と現場改革の成果が発表された。

はじめに登壇した山本氏は、横断的な取り組みでの工夫と数値的な成果を報告。当初、拠点ごとで自主保全士の受験者数にばらつきがあった点にふれ、是正するべく「自主保全士とは何か」の基礎から丁寧に共有し、リーダー会議を通じて受験促進を展開したと明かした。そのアプローチが功を奏して、減少傾向にあった受験者数は2023年以降大きく回復し、2024年、2025年には過去最高を更新。「合格者数も3年連続で右肩上がりです」と喜びを伝え、自主保全の価値が確実に現場へ浸透していることを示した。

続いて壇上に立ったのは、自主保全士2級・1級を取得済みで、昨年に引き続き企業発表メンバーとして選出された山田氏だ。山田氏は上郷・下山工場における受験者支援の仕組みを紹介した。特に若年層での資格取得率が低い状態に危機感を覚えた同工場では、自主保全士育成を通じた“製造現場における人材育成”を展開。合格者の知見を集約した教材作成および社内ポータルでの共有に、対面勉強会やOJTの実施など学習環境の整備が進められた。全体のレベルアップを実感する中、2024年度には優秀企業として団体表彰を受けた経験も追い風となり、組織全体のモチベーション

が向上したそうだ。山田氏は現場力の向上と資格取得活動が好循環を生むことを強調し、「自主保全士育成を通じた人材育成で、今後も強い職場づくりに努める」と語った。

元町工場の春木氏と浅野氏からは、同工場でのこれまでの取り組みが示された。春木氏は設備約2,100台を有する現場での度重なる異常発生に苦労した経験から、「設備をコントロールする楽しさ」を切り口に、保全意識を現場に広げることを選んだという。

2018年に実施した過去2年間のライン故障分析では、自主保全で防げた故障が20%、加えて定期保全で防げた故障が50%あったと可視化。そのデータを起点に、自主保全活動を「製造課と設備課が一体となった活動」へ転換したと明かされた。新入社員への3年間の専門教育や、製造課から設備課への「自主保全留学」などを制度化し、実践的な技能を育成。自主保全活動の定着を図るべく、現場で指揮を執る浅野氏を中心に、一人ひとりが主体的に課題解決へ挑む風土を醸成した。

結果、現在では年間30名以上が検定試験に挑戦し、部のメンバー約1,900名中600名超が資格取得者という層の厚さを実現している。現場力強化の中核として自主保全が機能していることを示した上で、これらの成功には「目標の明確化」「成長実感」「継続性」が欠かせなかったと強調。最後に浅野氏が「今後は資格取得者を巻き込みながら、自主保全への前向きな空気をさらに発展させていきたい」と意欲を語り、発表を締めくくった。

日本精工株式会社

生産本部
副本部長

杉村 博郎 さん

モノづくりセンター
副所長

鐘ヶ江 泰 さん

埼玉工場 生産技術課
保全係 係長

鈴木 英広 さん

ステップアップ式の人材育成で
モグラたたきの故障対応から脱却

全社一体となり、現場の自主保全力向上に注力する日本精工株式会社の発表では、横断的な人材育成での工夫と、製造拠点での成功事例が共有されました。

ベアリングを中核としてグローバルな事業を展開する日本精工株式会社からは、「自主保全士 認定取得推進取り組み」をテーマに、全社一体で進める人材育成と現場変革の成果が示された。

まず杉村氏が、同社の保全思想「自分の設備は自分で守る!」を軸とした現場づくりを解説。製造部門では自主保全リーダーとオペレーターが主体となり、生産技術課の専門保全員と連携して保全活動を行っている様子が共有された。

同社では特に予防保全を推進しており、異常発見から復旧、条件設定、維持管理までのスキルを体系的に習得することで、オペレーターのキャリアアップと設備の安定稼働を実現しているとのこと。加えて特色として、国内工場全20拠点で展開する“保全に特化した職場改善活動”が実践の場として機能し、設備に強い人材育成に着実に貢献していると語った。さらに保全力強化の一助として、保全履歴管理システムの活用により設備情報と作業記録を一元化し、保全計画を支援。杉村氏は「デジタルを活用して人と人をつなぎ、技能の継承と働きがいを叶える職場づくりに励んでいます」と述べた。

続いて鐘ヶ江氏は、モノづくりセンターの取り組みを紹介した。同センターは全工場を横断する育成機関として進化を続け、現在「自主保全コース」を核に認定取得を推進している。コースは自主保全士2級レベル到達を目標とする集合研修で、講義・実技・模試・デモ機訓練を組み合わせた実践型プログラム。全国の拠点から選抜され

た人材が受講し、検定合格率は平均70%以上。2017年以降のカリキュラム改革と2023年の改編を経て、自主保全の思想が深く根付いた教育体系へと進化した。

鐘ヶ江氏は「当社の認定取得推進の取り組みはまだ歴史が浅い」と前置きしつつ、これまでに1級・2級合わせて延べ99名の認定者を輩出した実績も公表。主体的に学び挑戦する人材を育てる仕組みが、組織全体の底上げにつながっているようだ。

最後に鈴木氏が、埼玉工場における現場変革の具体的な成果を提示した。かつては自主保全の意識が低く、モグラたたきの故障対応に追われていたという同工場。しかし「設備は自ら守る」という思想の周知とともに、設備に強いオペレーター=自主保全リーダーの育成に舵を切った。基礎点検から改善実習、QC活動(小集団改善活動)、認定取得、実務実習まで体系的に学べるプロセスを構築。結果として現場主導での点検・修理が定着し、異常の早期発見と迅速対応を実現した。簡易部品の内製化や設備改良も進み、生産性向上に寄与。さらに月2回の「保全の日」を設け、間接部門も巻き込んだ全員参加の清掃・点検を行うことで意識改革も推進してきた。

これらの取り組みが実を結び、「私使う人、あなた直す人」という意識は過去のものとなりつつあるという。鈴木さんは「引き続き、自分の設備は自分で守る“設備に強いオペレーター”の育成を進めます」と力強く展望を語り、事例発表を結んだ。

2025年度 自主保全士検定試験 成績優秀者表彰式を開催。



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会は、製造現場での自主保全を推進させる目的で、20年以上にわたり自主保全活動の啓蒙に取り組み、「自主保全士検定試験1級・2級」を実施しています。さらに同検定試験合格者の中から成績優秀者を表彰。2026年2月13日、表彰式と講演会が名古屋市で開催され、その模様をご紹介します。



メダルを掲げるのは「自主保全士検定試験1級」に合格され、成績優秀者として表彰された皆さん。前列はプレゼンターとして出席した、公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会の河合満会長、同協会資格認定委員会の宮脇克典委員長、同委員会の松田義博副委員長、迫田明之委員、鈴木富雄委員、鈴木真司委員、鈴置智協会専務理事。



昨年に引き続き、表彰式は名古屋市のANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋で開催。

1級 優秀者



2025年度の1級成績優秀者は26名。うち17名がこの日の表彰式に参列。

2級 優秀者



生産現場のオペレーターは自主保全の知識、技能を習得することで、迅速な異常の発見や修理・改善ができるようになり、重大な故障を未然に防ぐことができるようになります。公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会では、2001年から「自主保全士検定試験」を実施。現在、国内の製造現場には24万人を超える自主保全士認定者（検定試験・通信教育・オンライン試験）を輩出しています。2025年度は、1級合格者が2,230名、2級合格者が3,957名生まれましたが、その中でも1級から26名、2級から49名が成績優秀者として認定され、ANAクラウンプラザホテルグランコート名古屋（名古屋市）で開催された表彰式に招待されました。壇上に一人ずつ立ち、表彰状と記念メダルが授与され、加えて団体表彰された企業からの自主保全の取り組みにまつわる講演も行われました。その後はホテルの最上階に用意された懇親会場へ。

2026年も10月に「自主保全士検定試験」を実施します。設備に強いオペレーターの新たな誕生に期待します。

2級
優秀者



2025年度の2級成績優秀者は49名。うち34名がこの日の表彰式に参列。

2級
優秀者



表彰式では、成績優秀者が一人ひとり壇上で名を呼ばれ、表彰状を手渡された。



公益社団法人日本プラントメンテナンス協会では、個人の成績優秀者表彰と並んで、自主保全活動で目覚ましい成果を上げた企業に対しても、団体表彰をしています。2025年度の団体表彰は、50音順に、株式会社アイシン、トヨタ自動車株式会社、日本精工株式会社、本田技研工業株式会社の4社で、当日は3社が1社ずつ壇上に登り、記念の盾が手渡されました。トヨタ自動車と日本精工の2社からは、取り組み事例の講演もありました。



株式会社アイシン



トヨタ自動車株式会社



日本精工株式会社



懇親会は、自主保全の 貴重な情報交換の場に。



表彰式、講演会に続いて、会場をホテルの最上階「クリスタルルーム」に移し、懇親会が行われました。会場では、公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の役員と成績優秀者の皆さんとの記念撮影が行われたほか、成績優秀者の方々が自主保全にまつわる貴重な情報交換を行うなど、広い会場いっぱい笑顔が溢れ、自主保全士としての力強い眼差しも見えました。



受験勉強から教わった “初期清掃”の深い意味。

株式会社アイシンはトヨタグループの中核企業のひとつ、自動車部品のグローバルサプライヤーである。愛知県刈谷市の本社・工場に加えて、県内に多数の工場を擁しており、吉田さんは安城第2工場の加工課でトランスミッションに関連するアルミ部品製造ラインを担当する。アルミ部品を加工する工程では、マシンに取り付ける刃具の交換から加工した部品の測定まで、時にはライン外で起こる異常の処置も加わり、それらの業務を通して、求められる精度と品質をブレなく安定供給することが使命と語る。

そんな吉田さんが自主保全士検定試験に関心を抱いたのは、ある日、会社に届いた検定試験の案内を見て、自主保全という分野に自身の伸びしろを見出したからだ。

「今の自分の業務に直接関係することなので学んで実際に役立てたいと思いました。資格取得のための勉強が、自分には足りていない製造業の現場の知識を学べるチャンスだとも思いチャレンジを決めました」

ところが、「最初テキストを見たときに想像以上に分厚かったので、大丈夫かなと不安に」、それでも過去問に取り組むうちに自分の知っている言葉や業務に関わる身近な内容が出てきて、次第に自分事として学べるようになったことがやり遂げられた要因と分析する。毎晩、幼い子供たちが眠ってからの受験勉強が実り見事合格。職場では同僚や上司から「いやあ、すごいな!」と



株式会社アイシン
吉田 和真さん

びっくりされたと笑顔になった。

自主保全士検定は資格を得ることがゴールではない。資格に向けた受験勉強そのものから実際の現場業務に改善をもたらす。「学びの中で、“清掃・点検・給油”といった日々の基本について自分の理解不足に気付かされ、意識して取り組むことで理解が深まり質的にも向上していった」と振り返る吉田さん。「今回学んだことをしっかりと現場に持ち帰って、特に“清掃は点検なり、点検は不具合の発見なり”と言われる初期清掃の大切さを自職場での自主保全活動にも丁寧に取り入れ、設備の故障や品質不良の未然防止につなげていきたい」と力を込める。レベルアップした自主保全のその先には、新たな目標が姿を見せるはず。次なる挑戦に期待が高まる。

検定試験で優秀な成績を収めた4名の声をお届けします。自主保全士を志したきっかけや成長の手応え、そして今後の展望などを伺うと、そこには日々の業務へ意欲的に取り組む姿が見えてきました。

検定合格を通過点に、さらなる成長を目指す。

自動車の基幹部品を手がける愛知機械工業株式会社。笹川さんは同社松阪工場の製造3課(津地区)で、オイルパンの製造部門に所属する入社7年目の社員だ。

機械知識ゼロで入社し、多部門で最終検査の工程を経験した後に、より広い経験を求めて現部署へ異動。現在は加工から組み付け、完成検査までを横断的に支援する“フリーマン”として現場を駆け回り、多工程の運営を下支えしている。「作業の応援や調整、現場の声の吸い上げなど工場内の便利屋のような役割です」と笑うが、各工程を理解していなければ務まらない重要なポジション。だからこそ、設備や作業の仕組みを広く理解することが大切だと感じる場面も多かったそう。業務には慣れたものの、機械や保全の知識がほとんどないまま現場に立っていることに不安を覚え、自身の成長を模索する中で自主保全士検定試験に挑戦した。

「設備の構造や背景はもちろん、設備総合効率の計算や故障解析など、初めて触れる内容に苦戦することもありました。ですが、生産現場で働く上での基礎知識を固められたことが自信になりましたし、故障事例を学ぶことで、いざという時の心構えが得られました」

自主保全士検定の受験は会社が推奨していて、先輩や上司にも多くの合格者がおり相談しやすい環境。さらに社内のスクーリング講座で同僚と共に学べる学習



愛知機械工業株式会社

笹川 美沙貴さん

環境が大きな刺激となったという。昨年2級に合格し、その実績を弾みに今年度は1級へ挑戦。努力の甲斐あって成績優秀者に選ばれた。

検定試験への挑戦について、笹川さんは「業務レベルを上げていく上での大きな契機になったと思います」と振り返る。上長がどういった知識や視点をもって現場を統括しているか、その一端を学べたことも大きな収穫となった。次は、自主保全士の知識を生かし、機械や設備への知識をもっと広げてモノづくりの深い部分まで関われる人材となることが目標だそう。

自主保全士への取り組みは、笹川さんに自信と視野の広がりをもたらした。その一歩は、現場力を格上げする確かな推進力となるだろう。

現場とつながる知識から 根拠ある提言が可能に。

「次の日すぐにも現場で生かしたいと思える知識が多く、毎日やりがいをもって学びました」

そう語るのは、株式会社ナリコマフードの内藤さんだ。医療・介護福祉施設向け食品販売や業務受託サービスを展開するナリコマグループにおいて、食品製造および物流サービスを行う同社。なかでも内藤さんは神戸セントラルキッチンに所属し、1日約12万パック、3万食に及ぶ商品の仕分け・配送の運営管理を担当している。

現場では箱への袋がけやラベル貼付、コンベア搬送、コンテナへの積み上げまで多くを機械が担っており、いずれかが停止すれば出荷全体が滞るリスクがある。その分、自主保全の意識も高く、周囲には自主保全士認定者が多いという。

「1つの設備不良が生産性の低下に直結し、その先で食事を待つ方々の暮らしに影響する。その責任の重みに、皆が緊張感を持って業務に臨んでいます」

異業種から転職して2年目。機械化が進む現場への設備理解を深めたいとの思いから、社内の資格取得支援制度を活用し自主保全士検定試験に挑戦。「設備への知識不足を補いながら現場を俯瞰できる力を身に付けたいと考え、受験を決意しました」と振り返る。

勉強を進める上で嬉しかったのが、すぐに現場で生かせる実践的な知識を得られたことだという。また同僚



株式会社ナリコマフード
内藤 大智さん

や先輩と自主保全について話す機会が増え、教わった過去のトラブルや改善事例とテキストの情報を結び付けることで、理解が一段と深まったようだ。新たな着眼点を持つようになり、メンテナンス頻度について提言したことも。「とりあえず問題なく動いているから……で終わらせず、理論的に状況を捉え、根拠をもって説明できるようになったのは成長です」と手応えを語る。

現在は1級受験を見据えているという内藤さん。

「まだ周囲に1級合格者がいないので、私が先駆けとなり、設備保全と物流運営の両面から現場改善を牽引できる存在になりたいです」

学びを実務につなげ、成果として示す。内藤さんの姿勢は製造現場における人材成長の好例と言えるだろう。

複雑な設備への理解を深め、 さらなる現場保全力の向上へ。

自動車製造業界において、製造ラインの安定稼働は企業の競争力を左右する重要な要素である。マツダ株式会社の本社工場に勤務する立原さんは、ホワイトボディと呼ばれる塗装前の車体を製造する工程で、設備故障の原因究明と予防保全に取り組む技術員だ。

多関節ロボットや溶接機械など、多数の設備が並ぶ自動化されたラインを保全の面から支えることがミッション。そんな立原さんが自主保全士検定試験に挑んだ背景には、自らの課題意識があった。

「現場経験がまだ浅く、改善策を考える際のとっかかりに迷うケースにたびたび直面しました。自主保全の知識を学べば、設備を管理するための“現場視点”と“体系的な知識”を修得できそうだと考えました」

狙い通り、学習を通じて設備を捉える感覚が大きく広がったという。機械の構造を理解した上で、何を管理すべきかを考える重要性を再確認。自らの役割や業務への解像度がぐっと高まっただけでなく、製造担当者や修理担当者と深く議論できる知識が身に付いたことで、現場との意思疎通にも良い変化が生まれている。業務の質の向上を感じるようになったそうだ。さらにPM分析などの手法を学んだことで問題解決の道筋も明確に示せるようになった。

「故障が起きたとき、原因にたどり着くまでの考え方が



マツダ株式会社
立原 弘貴 さん

整理されたので、アプローチする手段が増えました」

車体製造部ではほとんどの工程が自動化されており、設備停止をゼロとすることはなかなか難しい。しかし立原さんは決意のみなぎる目で力強く語る。

「今後はこれまで蓄積した吸着圧や振動、異音などの保全関連のデータを活用し、自主保全士の知識をもって、設備の状態に基づいた『コンディション・ベース・メンテナンス』の徹底に向けて注力したいです。そして、現場の点検にかかる労力削減や点検の効率化に貢献できれば嬉しい」

若手技術者として知識を吸収しながら現場とオフィスをつなぐ立原さん。自主保全への挑戦は、設備保全の理解を深めると同時に、製造現場の課題解決へ向き合うための視野を広げる契機となったようだ。

自主保全士成績優秀者の方々より 喜びの声をいただきました。

※企業名、および氏名を縦列で50音順に掲載

2級 株式会社アイシン 岩瀬 裕貴さん



このたび、自主保全士検定試験で優秀賞をいただき、大変光栄に思います。今回の成果は、日々の積み重ねと、支えてくださった仲間や指導してくださった方々のおかげです。これに満足せず、さらなるスキルアップと改善活動に取り組み、設備の安定稼働と職場の安全・品質向上に貢献してまいります。

2級 エイブリック株式会社 伊藤 章吾さん

成績優秀者として選出していただき大変嬉しく思います。学習を始めたころは情報量が多く不安はありましたが、社内で定期的開催される講習会や周りのサポートもあり、前向きに学ぶことができました。自身の職場にも活かし、よりよい環境作りをしていけるよう日々努力していきたいと思っております。

1級 株式会社アイシン 中井 一さん

このたびは成績優秀者に選出していただき、大変光栄に思います。受験にあたりサポートしてくださった皆様に心より感謝申し上げます。今後は、身につけた知識を知識のままでは終わらせず、実践に活かし、生産性の向上やより良いモノづくりを目指してまいります。

2級 NGKセラミックデバイス株式会社 笹山 剛志さん

自主保全士検定試験を受験するにあたり、目標を高く持ち、高得点を獲得するつもりで勉強してきましたので、成績優秀者として選んでいただけたことを大変嬉しく思います。今回学んだ保全・管理の基礎的な知識を今後の実務で活かし、生産性向上、自己のレベルアップに努めていきたいと思っております。

2級 株式会社アイシン 吉田 和真さん



無事合格することができ、ほっとしています。合格することを目指していたので、このような賞を取ることができ、大変嬉しく思います。今後も日々の業務を通して自主保全に対する理解をより一層深めていきたいと思っております。

2級 株式会社小松製作所 吉田 哲哉さん



成績優秀者という栄誉ある評価をいただき、大変光栄に存じます。多忙な中、勉強会を通じてサポートしてくださった職場の皆様のおかげで、このような結果を残すことができました。自主保全士として学んだ「自分の設備は自分で守る」という精神を大切に、設備を正しく稼働させることで、工場のTPM活動の推進に貢献していきたいと思っております。

2級 井上軸受工業株式会社 川口 哲平さん



このたびは成績優秀者として表彰していただき誠にありがとうございます。今回の成果は、上司や同僚の皆様からのご指導、ご協力があってこそ得られたものであり心より感謝申し上げます。今後は今回の結果に慢心することなく、自身のスキルや知識の研鑽に一層励み、より大きな成果をもって会社に貢献できるよう努めてまいります。

2級 株式会社SUMCO 山口 励さん

成績優秀者に選出していただき誠にありがとうございます。学習をする中で多くのことを学び、TPMに役立つ新たな知識を多く得ることが出来ました。今後は、身に付けた知識を職場内で共有し、安全性、生産性の向上に努めていきたいと思っております。来年は1級にも挑戦し、再び成績優秀者に選出していただけるよう頑張ります。



1級 SUMCO TECHXIV株式会社
碓井 慎さん



成績優秀者として選出されたことを大変嬉しく思います。以前に2級を取得したことで、今までとは違う意識で作業に取り組むことができました。さらに、自身のレベルアップのために1級取得を目指し、日々勉強しながら自分自身の意識が変化していくことを実感しました。今後は習得した知識を生かして実務に取り組むだけでなく、学んだことを周囲に伝えて職場全体のレベルアップに貢献できるよう努力していこうと思います。

2級 住友電工焼結合金株式会社
竹中 千尋さん



このような素晴らしい賞を頂くことができ、大変うれしく思います。このたびの試験勉強は、自主保全士に必要な知識を学ぶ、あるいは学び直しとなる良い機会となりました。今後は生産性、保全性の向上といったことをより強く意識し、業務に励もうと思います。

1級 大同テクニカ株式会社
吉成 勇治さん



会社での講習等のサポートがあり、今回成績優秀者を受賞させていただきました。自主保全士検定の学習で得た知識を活かして、現在の自分のスキルを把握し、設備の維持管理向上や改善、技能向上をし、今後の活動に取り組んでいきます。

日々の業務を通じて、保全に関する知識を一層深めたいという強い思いと自身のスキルアップを目指して自主保全士1級の試験に取り組むことができました。たくさんの方からの協力もあり、無事合格でき大変嬉しく思っています。まだまだスタートラインに立っただけですが、この知識を高めていき、自職場の設備・品質管理に活かしていけるよう努めていきます。

1級 株式会社スズキ部品製造
松永 智大さん



今回、このような賞をいただき大変嬉しく思います。今回の受験を通して自主保全に関する知識、大切さを学ぶことができました。今後はこの知識を自身の現場に生かして、個の成長と稼ぐ力を更に向上させ、より良い製品作りを目指していきたいと思っています。

2級 株式会社デンソーエレクトロニクス
樋口 祥太さん



設備の基礎知識や改善、生産のノウハウ、自主保全活動の進め方など覚えることが多く最初は悪戦苦闘しましたが無事に乗り越え合格する事ができました。今後は学んだ知識を生かし、より良い品質のモノづくりや色々な改善に取り組んでいきます。

2級 株式会社SUBARU
志宮 寛幸さん



このたびは成績優秀者に選んでいただき、大変光栄に思います。検定試験に合格するのが"ゴール"ではなく"スタート"です。合格に向け、学んで得た知識とこれまでの経験を職場に広め、自身が働く試作工場ですらどうやってロスゼロにし、生産性を向上させ、TPMを本物にしていくかを真剣に考え取り組んでまいります。

2級 東北日東工器株式会社
宗形 侑磨さん

合格を目標に勉強した結果が成績優秀者という賞をいただけることとなり大変うれしく思います。今後は学習で得た知識を活かし、業務に取り組んでいきます。また、早く立ち立ちできるよう励んでいきます。



株式会社トヨタ
阿部 憲二さん



成績優秀者として選出いただきましたこと誠に光栄に思います。業務で生産設備を扱っていることから、自主保全士の知識が必要であると考え、試験に取り組みました。学習を通し不足していた知識を補うことができた実感しております。今後は、学んだ故障ゼロへの心得を職場で共有し、現場力の向上に努めてまいります。



トヨタ自動車株式会社
久保寺 秀幸さん



成績優秀者に選出いただき大変光栄です。検定試験を通して自主保全の考え方を体系的に学ぶことができました。この考えを業務に活かし、より働きがいがあり品質のよいモノづくりを目指します。



株式会社トヨタ
宮崎 忍さん

成績優秀者として表彰していただき、大変嬉しく思います。受験勉強を通じて得られた知識を活かし、より保全への意識を高めて生産性の向上につなげていきます。また、製造に携わる者として、設備故障の少ない予防保全に努めてまいります。



トヨタ自動車株式会社
志村 明洋さん



自分の強みを作り、少しでもメンバーや現場の力になれば、との思いで取り組んできました。今回の学びは、今後の設備管理や改善活動の支えになると感じています。身につけた知識を活かし、実践と共有に努めていきます。



トヨタ自動車株式会社
青木 大悟さん



このたび自主保全士資格を取得出来た事を心から誇りに思います。トヨタの一員として現地現物で課題を見極め、改善の積み重ねにより設備の信頼性と生産性向上に全力で取り組みます。学びを止めず挑戦を恐れず、仲間と共に安全・品質を守り抜き、未来のモビリティを支える現場づくりに貢献し、世界に誇れる生産力を築いていきます！



トヨタ自動車株式会社
中村 航太さん



成績優秀者として選出していただき、大変うれしく思います。日々の仕事では保全業務に係ることが少なく、試験勉強をすることで多くの知識を学ぶ機会となりました。試験合格が「ゴール」ではなく「スタート」だと思い、今後も学び成長し自職場に貢献できるように努めていきます。



トヨタ自動車株式会社
井岡 義隆さん



成績優秀者の選出、大変光栄に感じています。昨年自主保全士2級を取得し、今年1級を取得出来たのも職場上司、メンバーや家族の協力のおかげと感じています。職場の自主保全リーダーとして学んだ知識を実践しメンバーの育成と職場の活性化を進め、安全に良い品を安定して造る製造現場にしています。



トヨタ自動車株式会社
福吉 孝弘さん



このたびは、成績優秀者に選出していただき大変光栄に思います。保全の知識が無い状態からの勉強でしたが、職場から保全留学させていただき、保全・自主保全と学ばせていただきました。まだまだ知識不足ではありますが、今回学んだことを活かし現場でのAC一体化に向けた職場づくりに努めていきます。



トヨタ自動車株式会社
岩瀬 健さん



成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。私は設備に強いオペレーターになりたいと思い自主保全士を目指して勉強を始めました。正しい知識を学び、成績優秀者にも選ばれた事で自信ができました。今回の経験を通じて得た知識と気付きを今後の業務にしっかりと活かし、職場に貢献していきます。



トヨタ自動車株式会社
前田 響さん



昨年の2級に続き、1級でも成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。改めて学習することで、理解を深め知識を定着することができました。今後も自職場において自主保全活動を継続し、更なる生産性向上・安全確保・高品質なモノづくりに貢献します。



トヨタ自動車株式会社
松下 真司 さん



このたびは成績優秀者に選出頂き大変光栄です。受験勉強をする中で多くの知識を得る事が出来ました。今後も更に知識や理解を深め自職場の自主保全活動に積極的に参加し、高品質で生産性の高いモノづくりに貢献出来る様取り組んでいきたいと思ひます。



株式会社ナリコマフード
内藤 大智 さん



このたび、自主保全士に合格し大変嬉しく思ひます。勉強をする過程で得られた知識を現場の更なる改善に活かします。また、その知識をチームに共有することで全体の能力の一層の向上を図り、より良い品質を追求できるような後も精進してまいります。



トヨタ自動車株式会社
峯岸 隆行 さん



入社以来、保全業務一筋に従事し、メンバーの育成に注力してまいりましたが、このたび、工場全体の技能育成を担当する部署へ異動となり、一念発起して受験を決意いたしました。自社特有の用語変換に苦慮しましたが、無事合格することができました。今後は、仲間の育成支援および自主保全の推進に一層寄与してまいります。



日産自動車株式会社
阿部 慶人 さん



このたびは成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思ひます。受験勉強を始めた頃は保全の知識が少なく合格できるか不安でしたが、無事合格でき一安心しております。今後は学んだ知識を職場の活動に活かすとともにより良い品質のモノづくりを目指します。



トヨタ自動車東日本株式会社
東海林 克太 さん



このたびは成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思ひます。今回の試験を通して自主保全に関する知識を深めることができ、自分自身のレベル、モチベーションがかなり向上しました。今後は職場の自主保全リーダーとして、今回得た知識を生かしメンバー・関係部署と一緒に故障ゼロの職場を目指していきます。



日産自動車株式会社
古谷 章 さん



今年度から自主保全を推進する立場になりましたが、知識や経験が足りなかったため、自己研鑽で受験を志願しました。工場の事務局や共に受験する若手メンバーたちと切磋琢磨し、合格できた事は非常に嬉しく思ひます。これがゴールではなく、スタートとして今後は知識や知恵などを活かし、更なる現場力向上に努めていきます。



トヨタ車体株式会社
松田 規孝 さん



これまで多くの設備調達を経験してきましたが、自主保全する側の知識が不足していると感じ受験しました。勉強し始めの頃は、知らないことが多く合格できるか不安でしたが、新しい発見や、ためになることばかりでしたので楽しく勉強できました。今後は、得た知識を生かして、自主保全しやすい設備づくりに取り組みます。



日産自動車九州株式会社
窪蘭 将志 さん



昨年、自主保全活動を推進する立場となり受験を決意しました。そのような中、成績優秀者と名誉ある賞をいただきとても嬉しく思ひます。サポート頂いた方々へ感謝いたします。今後は学んだ知識を最大限活かし、自主保全活動を通じた後継者育成と安定生産、現場力向上に邁進していきます。



トヨタ紡織株式会社
小島 瑞貴 さん



上司からの勧めで受験しましたが、無事合格でき、さらに成績優秀者にまで選出いただき嬉しく思ひます。自主保全士検定の知識は自身の業務と深く関わる内容もあり、良い機会になりました。今回学んだ事をしっかり今後の業務に活かしていきたいと思ひます。



日産自動車九州株式会社
牧田 勝康 さん



成績優秀者という結果に驚きましたが、選出していただいた事は誠に光栄であり、今後の励みと自信になります。受験にあたりサポート、ご指導くださった方々に心から感謝します。今後も学びの意識を絶やさず、得られた知識と新たな視点でより良い職場づくりと生産性向上に取り組み、1級取得にも挑戦します。



日本精工株式会社
西條 拓弥さん



成績優秀者に出出して頂き大変嬉しく光栄に思います。このような賞を頂いたのは、上司と社内講習会でお世話になった講師の方々、一緒に切磋琢磨した仲間達のおかげです。今回学んだ知識を職場の自主保全活動に活かして会社に貢献出来るように努力を続けて参ります。1級を受験する際は成績優秀者には選ばれるように努力します。



北陸熔断株式会社
宮江 京介さん



勉強を始めた当初は覚えることが多く苦労しましたが、現場での作業と結び付けて学ぶことで理解が深まり、無事に合格することができました。今後は自主保全の考え方や学んだ内容を職場内で共有・展開し、設備トラブルの未然防止と職場全体の品質向上に貢献していきたいです。



パナソニックエコシステムズ株式会社
鎌田 将史さん



成績優秀者に出出されたこと光栄に思います。知識が浅い中で学び始めましたが、上司や係の先輩方からのご指導のおかげで取得できたものであり、大変感謝しております。今回の学びを単なる知識に留めず、現場の力となれるよう全力で取り組み、より良い工場づくりに貢献していきます。



本田技研工業株式会社
小池 陽大さん



試験に向けて勉強を始めた頃は、分からない事だらけでしたが、周りの方々のサポートもあり無事合格することが出来ました。今回学んだことを仕事に活かすと同時に、さらに上位資格を目指す為にも勉強を重ねていきたいと思ひます。



ヒノデメタル株式会社
田村 優さん



このたびの自主保全士合格及び成績優秀者受賞、大変嬉しくまた光栄に思っています。社内内で初の1級挑戦ということもあり、とてもプレッシャーを感じていましたが、逆にそれが良い方に働いたのではないかと思います。今後もこの勉強で培った知識を生かしてよい職場を目指していきます。



本田技研工業株式会社
三砂 一馬さん



今回、このような賞をいただけたことを大変光栄に思います。自主保全士2級の受験を通して、今まで設備に対して漠然としていた知識や理解を改めて整理しアップデートする貴重な機会となりました。今回得た経験を活かし、設備への理解をさらに深め日本のモノづくりの中核を担う人材になりたいです。



富士フイルムエンジニアリング株式会社
稲葉 千穂さん



工程作業の中で感じていたロスを体系的に勉強できたことで課題形成力向上・改善力向上に繋がりました。苦手分野の機器設備は他職場へ装置実物を見に行くことで理解と興味を深められました。学んだ事を日々の業務に生かしてまいります。



マツダ株式会社
島本 大樹さん



このたびは成績優秀者になれてうれしく思ひます。自主保全活動に携わる中で基本的な考え方や実践方法を学びたいと思ひ受験させていただきました。今回学んだことを日々の業務や職場内の自主保全活動に活かし、「自分の設備は自分で守る」を信条に生産性の向上、より良い品質のモノづくりに貢献していきます。



富士フイルムマテリアル
マニファクチャリング株式会社
菅原 彩夏さん



無事合格することができ、また成績優秀者に出出されたこと大変嬉しく思ひます。今後は、今回学んだことを単なる知識のままで終わらせるのではなく日々の業務に取り入れ、生産性向上に貢献していきたいです。また次回の1級試験でも成績優秀者には選ばれることを目標に努力していきたいと思ひます。



マツダ株式会社
立原 弘貴さん



稼働担当スタッフとして職場の取り組みを正しく理解し、業務に生かすため、自主保全士の学習に積極的に取り組みました。職場および上司の支援のもと、現場現物で自主保全の考え方を着実に身につけ、日々の業務に反映させてきました。今後は、自主保全士の勉強で得た知識も活用し、現場を支える存在として安定稼働と継続的な改善活動に一層貢献していきます。



三菱重工業株式会社
森 厚人 さん



このたびは成績優秀者に選出いただき、大変嬉しく思っております。日頃より支えてくださっている会社・職場の皆様、先輩方に心より感謝いたします。教えていただいたことを振り返りながら自身でも学び直す中で、新たな気づきや理解を深めることができました。学んだ知識を今後の業務に生かしてまいります。



個人
高来 真 さん



このたびは自主保全士1級受験に際し、単なる合格ではなく成績優秀者となることを目標に掲げ邁進してまいりました。その努力が実を結び、感無量です。結果として自社初の1級成績優秀者という栄誉をいただき大変光栄に思います。この経験と知識を活かし、今後も基本を徹底し設備保全品質向上に貢献してまいります。



ヨシワ工業株式会社
濱本 みいな さん



このたびは成績優秀者として選出いただき、大変光栄です。私は製造課において、主に間接業務に携わり、現場を「支える側」として、自主保全を学ぶ必要性を強く感じました。本検定を通じて得られた、自主保全の考え方や体系的な知識を活かし、現場を支える立場から自主保全活動の推進に貢献していきたいと考えております。



個人
戸部 雅之 さん

このたび自主保全士1級に合格し、成績優秀者として表彰いただきありがとうございます。今回の学びを、当社でまだ十分に浸透していない自主保全の取り組みに活かし、現場での実践を通じて設備の安定稼働と改善活動に少しでも貢献していきたいと考えています。



個人
磯部 広美 さん



昨年の自主保全士2級に続いて、1級でも成績優秀者に選出していただき大変嬉しく思います。直接保全に関わる業務ではなくなりましたが、これからも試験勉強にて学んだ知識を実際の業務に取り入れ、色々な方面から生産性を向上していきたいと思っております。



個人
日浦 一夫 さん

このたびは成績優秀者として選出していただき誠にありがとうございます。日々のOJTにおいて、慣例や通称ではない正しい言葉遣いができるようにと思い、学び直しました。今後も常識の新陳代謝をテーマにして更なる研鑽を重ね、モラルの高い職場づくりに貢献していきたいと思っております。



25年以上の試験実績 累計約40万人の利用者数



資格認定 “設備に強いオペレーター”

自主保全士通信教育

4つの能力

異常発見能力

処置・回復能力

条件設定能力

維持管理能力

設備に強い
オペレーター

5つの知識・技能

生産の基本

生産効率化とロスの構造

設備の日常保全
(自主保全活動)

改善・解析の知識

設備保全の基礎



こんな変化が！

設備が変わる

不具合の発生しない
きれいな設備になります。

人が変わる

オペレーター1人ひとりの
考え方や意識・行動が変わります。

現場が変わる

生産性の高い最適な
職場体質に変わります。

役割と求められる能力

1級

職場チーム（小集団）における中心的、リーダー的な存在となり、自主保全を展開する上での計画・立案と実践指導ができる

2級

製造（生産）に関わる部門の一員として、自身の業務に従事しながら、自らが関わる設備や工程・作業について自主保全を実践できる

\\ 多くの企業で活用されている資格です //

通信教育で、いつでも、じっくり学び、確かなスキルに

添削レポート5単位分修了後に **認定試験** にチャレンジ！

在宅勤務の方にもオススメです

受講開始後、最短4カ月で **「自主保全士」** 認定が目指せる！

通信教育でも資格取得!!

※開講月や認定試験実施月によって、資格認定までの期間が異なります。





「自主保全活動」とは、オペレーター1人ひとりが自分の使っている設備を管理でき、設備の正しい姿を維持する活動です。そのためには、自分の設備は自分で守る、いわゆる「**設備に強いオペレーター**」を現場に浸透させる必要があります。オペレーターは、オペレーションのみではなく、保全の知識を身につけることで、迅速な異常発見や簡単な修理・改善ができるようになり、重大な故障を未然に防ぐことができるようになります。この能力を身につける効率的な手段が、「**自主保全士認定制度**」です。

「自主保全士」が「現場」を変える

「設備」が変わる

自主保全士取得のメリットは、設備の専門家に任せず自分の設備は自分がしっかり守る意識が定着したこと。

その結果、設備がいかに止まらないようにするか、故障の未然防止はどのようにすれば良いかという意識が芽生えた。その結果、不具合の発生しないきれいな設備になりました。

(自動車系：T社)

「人」が変わる

当初の自主保全士取得は、製造部門のみだったが、技術部門やアルバイトにも受験対象を拡大。自主保全士の有資格者が増加するにつれて、一人ひとりの専門用語への理解が深まり、技術的な専門用語を含めた会話ができるように。部門を跨いだ専門用語の共通化によりコミュニケーションアップ！

(非鉄金属系：R社)

▶ 通信教育のコース概要

受験資格

- 1級 ▶ 実務経験4年以上
- 2級 ▶ 実務経験0年(不要)

コースの詳細については、公式サイトをご確認ください。

スケジュール

レポート(5単位分)

- 申込期限 ▶ 開講前月12日まで
- 開講日 ▶ 毎月1日
- 受講期間 ▶ 5ヵ月間(在籍：8ヵ月)

- 教材(テキスト5冊)は、開講日直前に送付します。

認定試験(4回/年)

実施月 ▶ 3・6・9・12月

- 受験には、各実施月2ヵ月前の末日までにレポート添削が修了する必要があります。
- 認定試験結果が不合格の場合、1回に限り、次回の認定試験を追試験として受験可能です。

認定基準

全5単位の添削レポートを修了し、かつ認定試験にて合格

- 添削レポート、認定試験には、各々合格点が設定

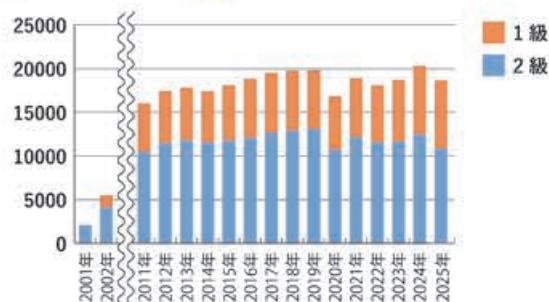
受講費(税込)

- 1級 ▶ 一般 ¥36,300円(税込) 特別 ¥33,000円(税込)
- 2級 ▶ 一般 ¥31,900円(税込) 特別 ¥28,600円(税込)

- 特別受講料は、1回の受講申込で10名以上(1,2級あわせて)の申込みの場合、または公益社団法人日本プラントメンテナンス協会の会員に限り適用されます。

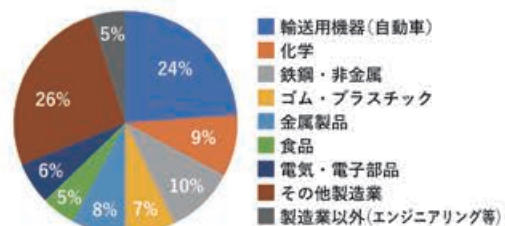
▶ 20年以上の試験開催と幅広い製造業での利用実績

- ▶ 2001年から現在に至る**25年**の試験実績
- ▶ 累計利用者 **約40万人**の利用実績



級別申請者の推移(検定試験、オンライン試験、通信教育の合計)

- ▶ 毎年**450企業・団体**での活用実績
- ▶ 累計認定者数**24万人**以上の製造現場への輩出実績



団体申込の業種別傾向

通信教育のお申込みは、公式サイトから



<https://www.jishuhozenshi.jp/>

お問い合わせの際は、公式サイト内のお問い合わせフォームから



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

オペレーター主体の設備保全で、
生産現場を変える

3つの
資格取得方法

検定試験
オンライン試験
通信教育

生産分野向け試験 国内最大級資格



資格認定 設備に強いオペレーター

自主保全士認定制度

検定試験

検定試験：年1回実施

- ・もっとも受験者の多い認定方法
- ・全国の会場で一斉実施

通信教育

通信教育：毎月開講（毎月1日から）

※レポート5単位分+認定試験を含みます

- ・自分のペースで学習できる
- ・自宅や職場の好きな場所で学習できる
- ・合格後もテキストで復習できる

資格取得方法

※いずれの取得方法でも「自主保全士」として認定します

生活スタイルに合わせて
選べる3つの資格取得方法



オンライン
試験

オンライン試験（IBT方式）：年3回実施

- ・自宅や職場の好きな場所で受験ができる
- ・都合の良い日時に受験ができる
- ・合格結果が試験実施直後にわかる



認定制度の詳細や企業のご活用事例は
自主保全士公式サイトをご確認ください。

<https://www.jishuhozenshi.jp/>



公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会
Japan Institute of Plant Maintenance

プラントエンジニア特別号 つなぐ 2026年5月12日発行

編集・発行 公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-3 神保町SF Ⅲビル5階

TEL:03-6865-6081 <https://www.jipm.or.jp/> / E-mail:jishuhozenshi@jipm.or.jp

本書の内容の一部または全部を無断で複写・複製（コピー）することは、法律で定められた場合を除き、著作および当会の権利の侵害となりますので、あらかじめ許諾を求めてください。

「自主保全士」・「TPM」・「からくり改善」は、公益社団法人 日本プラントメンテナンス協会の登録商標です。

KARAKURI KAIZEN is trademark or registered trademark of Japan Institute of Plant Maintenance in Japan and other countries.

